

三陸の海を放射能から守る 岩手の会（略称）三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理 / 岩手の環境》

<http://sanriku.my.coocan.jp/>

《本紙の全バックナンバー掲載》

止めよう！
《再処理》

《天恵の海》

2022(令和 4年)

3月12日

第231号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

人が近づけない！ 放射能汚染設備や機器が 4876箇所

六ヶ所工場は 震度6強に耐えられるか（後）（前号から続き）

図1

使用前事業者検査対象の分類のイメージ

分類	対象(箇所)		結果
既設 (改造なし) 23329	アクセス困難なセル内の機器	2,251	全て確認完了。記録の不足なし。 (6/28 審査会合で報告済)
	アクセス困難なセル外の機器	2,296	全て確認完了。記録の不足なし。
	アクセス可能な機器	16,358	実検査可能であり検査は成立する。 (検査前までに検査記録を整理)
	建物・構築物	2,424	全て確認完了。記録の不足なし。
配管 30380	重大事故等対処設備の配管	5,130	全て確認完了。記録の不足なし。
	その他	25,250	全て確認完了。記録の不足なし。
F施設 592	アクセス困難なF施設の機器	329	全て確認完了。記録の不足なし。
	アクセス可能なF施設の機器	263	実検査可能であり検査は成立する。 (検査前までに検査記録を整備)

(注1)「分類」には その他として 新設5242 改造118 がある。

(注2) 図1は 第409回 安全審査会 (2021・7.26) 日本原燃提出の資料より作成

六ヶ所再処理工場は、建設に着手した一九九三年からすでに二九年目。実際に放射性物質を使用したアクティブ試験を行ってからも一五年の歳月が流れました。長い年月のうちに、総延長二三〇〇kmと言われる配管や諸装置が老朽化し始めました。アクティブ試験とセル内の放射性廃液漏れにより、人の立ち入れない「アクセス困難箇所」が増大しています。財政的にも破綻寸前です。

工場内主工程は 放射能汚染

工場の使用前事業者検査対象の五万九六六一箇所について、人がアクセス困難な箇所は四八七六（八・二％）との事です。このアクセス困難な検査対象について、日本原燃は、驚くなかれ、工場の各種記録（設計、政策、施工、検査記録等）を組み合わせて安全審査が実施可能としています。

人が近づけない機器 汚染対策 不可能 どのように耐震補強？

使用前事業者検査では、現在の機器の状態が確認されなければなりません。放射能により人が近づけない、危険でしかも老朽化が進んでいる主要工程の機器のデータを

第409回安全審査会

https://www2.nsr.go.jp/disclosure/committee/yuushikisya/tekigousei/nuclear_facilities/180000182.html

高レベル廃液・ガラス固化建屋

直接取らないで過去の記録で検査に代えるなど有り得ない、あまりにも非科学的な危険な行為です。

左図は、最も危険な、放射性廃液貯槽と廃液をガラス固化体にする溶融炉がある建屋です。ガラス固化炉セルでは廃液漏洩事故がありました。薄赤色部分は放射線で人が立ち入ることが難しい状況にあります。

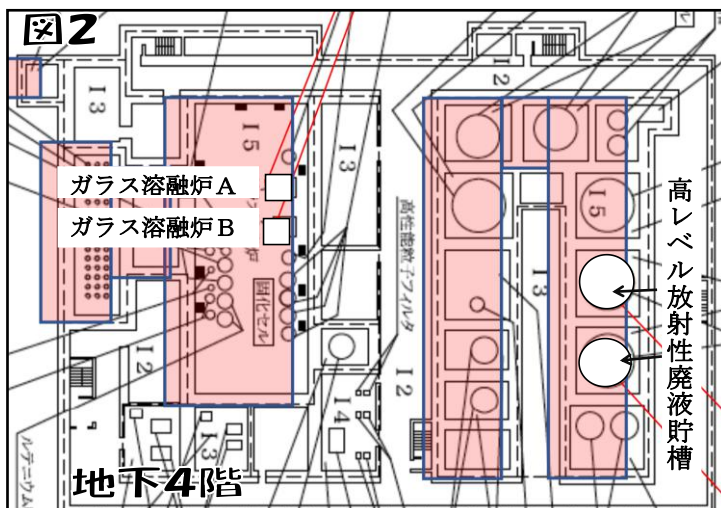
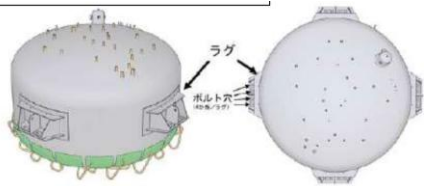


図2出典「事業変更許可申請書」 建屋の右側に最も危険な高レベル廃液貯槽、建屋の左側にガラス固化溶融炉が配置されている。

循環パイプで絶えず冷却。廃液貯槽



現在 廃液を貯槽に
約**220** m³保管中！

高レベル放射性廃液は、水素発生と崩壊熱があり、水素爆発、蒸発乾固・硝酸塩爆発の恐れがある。常時電気による冷却水の循環と水素掃気を行って貯蔵されています。放射線が強くそばに人が立つと致死量を浴びてしまいます。どうやって冷却用パイプや、循環ポンプ、無数の計器類を保守・点検するのでしょうか？ 耐震性強化などが出来るでしょうか？ 現存する放射性廃液を緊急にガラス固化し、再処理そのものから撤退するしかありません。

高レベル廃液貯槽 耐震性強化はできるのか？



二〇一一・三・一一東日本大震災のとき、特に日本の二つの再処理工場がどのような状態であったのか、当時を伝え「天恵の海」の記事を紹介します。

六ヶ所再処理工場

一日、地震発生後、非常用電源へ、すべて商業用電源への回復は、一日五朝。

高レベル放射性廃液二四〇立方、使用済み燃料約三〇〇〇トン、使用済み燃料約三〇〇〇トンを貯める六ヶ所再処理工場について原燃ホームは次のように報じています。（抜粋）
◆十一日地震発生に伴い再処理工場、高レベル放射性廃棄物センタ、ウラン濃縮工場の外部電源喪失、非常用電源により給電。
◆十三日二二時二二分 使用済み燃料受け入れ・貯蔵施設を除く再処理工場の保安上の電源を、商業電源に切り替え。
◆十四日一五時十二分 ウラン濃縮工場、非常用電源から商業電源に切り替え。
◆十五日五時十分までに再処理工場の保安上必要な電源についてすべて商業用電源に切り替え。

「天恵の海」第九号
2011・3・30発行

東海再処理工場

外部電源喪失四六時間

東海再処理工場も地震により停電となり、非常電源七基が立ち上がりしました。隣接する新川沿いに約五・六の津波が襲来。防潮堤は高さ六・六で約一の余裕があり、運良く浸水の危機を免れました。外部電源が復旧したのは約四六時間後でしたが、工業用水の断水が八五時間、水道水の断水が二六五時間続きました。高レベル放射性廃液の発熱除去用冷却ポンプと水素除去用圧縮機は継続運転出来ました。使用済み核燃料貯蔵プールには、廃炉作業中の「ふげん」のもの二六五体（約四二トン）がありプール水が床面に一部溢れました。しかし、冷却は維持出来ました。隣接する実規模開試験施設の壁が破損し、さらに二〇トンクレーンが落下しました。（JAEA『フレンドリー通信臨時増刊号』から）

「天恵の海」第一〇六号
2011・12・13発行

（市民団体）六ヶ所村の新しい風 日本原燃宛 要請・質問文書提出

工場の竣工を止めてください

質問二項目（要約）

- 1、もんじゅの廃炉、核燃サイクルは成り立たず六ヶ所再処理工場は計画を一から見直すべきです。見解をお聞かせください。
- 2、再処理稼働によって大量発生するトリチウムによる環境破壊をどう考えますか？
- 3、大地震によって高レベル放射性廃液の貯槽の冷却が止まり蒸発乾固後の揮発や爆発の恐れが出てきた場合、貯槽自体の爆発へどう対処しますか？

要請の理由（要約）

六ヶ所再処理工場は二九年が経過し、工場の施設そのものに老朽化が始まっており、放射能漏洩など大事故が起る可能性は排除できません。原子力規制委員会は高レベル廃液貯槽の冷却が止まった場合の「蒸発乾固後の揮発や爆発」について対策審査の対象としない、と政府答弁で答えました。国民の生命、健康、財産、環境を守り住民に被害が及ぶ前に再処理工場の本格稼働はやめるべきです。

裁判に関わるので回答出来ない？

この文書は一月二六日に日本原燃に送られ、二月七日までの回答を要請しました。「裁判に関することなので文書で回答出来ない」との口頭の返事でした。「蒸発乾固後の審査問題」は国会での福島みずほ議員の質問主意書で明らかにしました。地元は誠意をもって回答するべきです。